

APC3.0 SP3 アップグレードマニュアル

バージョン20091106

目次

1. アップグレード前に.....	3
1-1. 事前に用意するもの	3
1-2. 現在 APC バージョン確認.....	3
1-3. LDAP、データベースのバックアップ	5
1-4. V3 ウイルスブロック 2005 ポリシーのチェック	5
1-5. ファイアウォール ポリシーのチェック	6
1-6. AHNLAB スパイゼロ 2006 ポリシーのチェック	6
1-7. V3 ウイルスブロック ポリシーのチェック	6
1-8. DATABLOCK ポリシーのチェック	6
1-9. V3 INTERNET SECURITY ポリシーのチェック	6
2. AHNLAB POLICY SERVER のアップグレード	7
2-1. Policy Admin や Monitor Center など APC 関連ウィンドウを閉じてください。	7
2-2. アップグレーダーの実行.....	7
2-3. APC 3.0 ライセンス番号を入力	7
2-4. データベースの「SA」のパスワード入力	8
2-5. Proactive Defense (プリディフェンス)の管理選択	8
2-6. ファイルの切り替えとサーバーアップグレード終了	9
2-7. 正常にアップグレードができない場合	10
3. AHNLAB POLICY ADMIN の再インストール	11
3-1. 既存 Policy Admin を削除する前に	11
3-2. 最新 Policy Admin の再インストール.....	11
3-3. Policy Admin にログインし、バージョンを確認します。	11
4. アップグレード後の設定	13
4-1. ドメイン管理の設定	13
4-2. 「製品登録ツール」で製品登録をし直します。	17
4-3. ポリシー管理の設定	18
4-4. 製品の入れ替え	20
4-5. アップグレード後の作業	26
4-6. サーバー管理	27

5. 付録 29

1. アップグレード前に

1-1. 事前に用意するもの

各項目をチェックし、アップグレードする前に用意してください。

※ 本手順書は「AhnLab V3 License Media Pack」の構成で説明されています。

※ AhnLab V3 License Media Pack（以下[メディアパック CD]と表記）のプログラムはアンラボホームページからダウンロードできます。

1. APC3.0 SP3 (Ver 3.0.14.5) メディアパック CD、新製品のライセンス番号を用意してください。（申請が必要となります。）

APC3.0 SP3 へのアップグレードパス	シリアル番号の申請が必要な製品
APC2.5.X	① APC3.0 ② V3 Internet Security 8.0 ③ V3Net for Windows Server 7.0
APC3.0.8.5 から APC3.0.12.7 (SP1) まで	① V3 Internet Security 8.0 ② V3Net for Windows Server 7.0
APC3.0.13.11 (SP2)	① V3 Internet Security 8.0

<参考> APC3.0 旧バージョンから APC3.0 SP3 へのアップグレードの場合、既存のAPC3.0のライセンス番号をご利用ください。

<注意> V3 Internet Security 8.0 は Windows 98 (SE)、Windows ME に対応しておりませんので旧バージョン (V3 ウイルスブロック IS 7.0 Platinum Enterprise) を手動でインストールする必要があります。

2. 「データベースの SA のパスワード」をご用意ください。

1-2. 現在 APC バージョン確認

バージョンごとにアップグレード作業が多少異なるため、必ず現在運用している APC のバージョンをご確認ください。





図) APC バージョン確認

基本的に「Policy Center Admin」、「Policy Server」、「Policy Agent」のバージョンは同一となります。

● アップグレード可能バージョン

既存 Policy Server バージョン	APC 3.0 SP3 アップグレード可否	備考
2.5.0.0071以前	×	APC2.5.6にアップグレードしてから APC3.0 SP3にアップグレードします
2.5.0.0071 (APC 2.5+)	○	
2.5.5.294 (APC 2.5.6)	○	
3.0.8.5	○	
3.0.11.15	○	
3.0.12.7 (APC SP1)	○	
3.0.13.11 (APC SP2)	○	

● 管理製品の移行表

※ 新製品への移行作業は [＜4-4. 製品の入れ替え＞](#) をご参考ください。

旧製品名	対象 OS	移行可能製品名
V3 ウイルスブロック 2005 V3 パーソナルファイアウォール 2005 AhnLab スパイゼロ 2006	98系 (※1)	V3 ウイルスブロック IS 7.0 P latinum Enterprise
	NT系 (※2)	V3 Internet Security 8.0
V3 ウイルスブロック IS 7.0 Enterprise V3 ウイルスブロック IS 7.0 Platinum En	98系	移行不可 (旧製品そのまま利用)

enterprise	NT系	V3 Internet Security 8.0
V3 ウイルスブロック for Windows Server	サーバー系OS	V3Net for Windows Server 7.0
DataBlock 1.5、DataBlock 2.0		移行不可（サポート終了）

（参考）

※1：98系の OSは、Windows 98(SE)、Windows ME

※2：NT系の OSは、Windows 2000、Windows XP(32/64Bit)、Windows Vista(32/64Bit)、Windows 7(32/64Bit)

1-3. LDAP、データベースのバックアップ

アップグレードの際、システム障害などでアップグレードが出来なかった場合に復旧できるよう、LDAP とデータベースをバックアップする必要があります。

（手順）

ア. スタート→プログラム→AhnLab→AhnLab Policy Center→Policy Serverシステムツール選択します。

イ. システムツールにログインします。（パスワードはデータベースのSAパスワード）

ウ. ログイン後、【サーバーサービス管理】タブを選択し、「APC サーバーサービスをすべて停止」を選択し「実行」ボタンをクリックします。

※「処理失敗」の場合、再度「実行」ボタンをクリックしてください。「処理が終了しました。」とのメッセージが出ると次のステップに移動します。

エ. 【LDAP バックアップ】タブを選択し、保存先を選択して「実行」ボタンをクリックします。

オ. 【データベースバックアップ】タブに移動し、保存先とファイル名を指定して「実行」をクリックします。

※ バックアップデータにより、時間が掛かる場合もありますので終了メッセージが出るまでお待ちください。

カ. バックアップ作業の終了後、再度【サーバー サービス管理】タブに移動し、「APC サーバー サービスをすべて開始」を選択してから「実行」ボタンをクリックします。

キ. Policy Server システムツールを閉じます。

1-4. V3 ウイルスブロック 2005 ポリシーのチェック

V3 ウイルスブロック 2005(旧バージョン) で設定されているポリシーは V3 Internet Security 7.0 に移行することができないため、ユーザーが設定した V3 ウイルスブロック 2005 ポリシーをメモする必要があります。

※ アップグレードされても「管理製品設定」より削除されない限り、V3 ウィル

スブロック 2005 のポリシーは残っているため、アップグレード後に確認しても構いません。

1-5. ファイアウォール ポリシーのチェック

ファイアウォールポリシーも V3 Internet Security 7.0 に引き続かないため、ユーザーが設定した場合は「ファイアウォール」ポリシーもメモする必要があります。

※ アップグレードされても「管理製品設定」より削除されない限り、「ファイアウォール」のポリシーは残っているため、アップグレード後に確認しても構いません。

1-6. AhnLab スパイゼロ 2006 ポリシーのチェック

AhnLab スパイゼロ 2006 ポリシーも V3 ウイルスブロック 2005や ファイアウォールポリシーと同様にユーザーがポリシーを設定した場合はメモする必要があります。

※ アップグレードされても「管理製品設定」より削除されない限り、「AhnLab スパイゼロ 2006」のポリシーは残っているため、アップグレード後に確認しても構いません。

1-7. V3 ウイルスブロック ポリシーのチェック (※APC3.0 SP1 以前の全バージョンに該当)

APC3.0 SP2 以降のバージョンでは新たに Windows Server 用の製品 (V3Net for Windows Server 7.0) を提供しますので以前バージョンであるV3 ウイルスブロックポリシー (V3 ウイルスブロック for Windows Server用ポリシー) も V3 ウイルスブロック 2005 や ファイアウォールポリシーと同様にユーザーがポリシーを設定した場合はメモする必要があります。

※ アップグレードされても「管理製品設定」より削除されない限り、「V3 ウイルスブロック」のポリシーは残っているため、アップグレード後に確認しても構いません。

1-8. DataBlock ポリシーのチェック

DataBlock の場合、DataBlock 2.0へポリシーを移行することができますので特に以前のポリシーをメモする必要はありません。

※DataBlock は現在サポートを行っておりません

1-9. V3 Internet Security ポリシーのチェック (APC3.0 ご使用のユーザーのみ)

V3 Internet Security の場合、ポリシーを移行することができますので、特に以前のポリシーをメモする必要はありません。

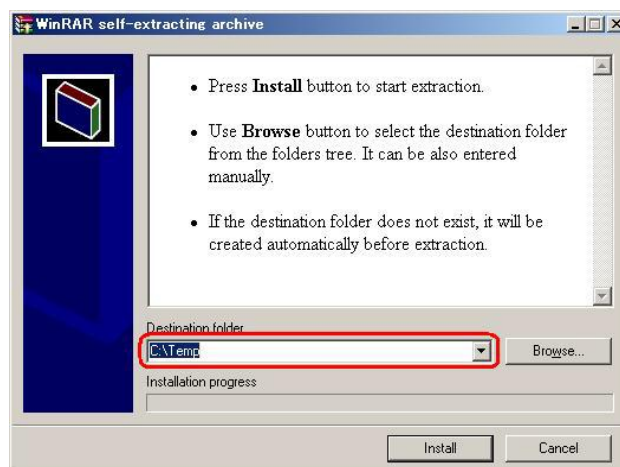
2. AhnLab Policy Server のアップグレード

2-1. Policy Admin や Monitor Center など APC 関連ウィンドウを閉じてください。

2-2. アップグレーダーの実行

メディアパック CD の /2_Upgrader/APC30SP3_Upgrader.exe を実行すると自動解凍の画面が表示されます(下図参照)。 解凍ファイルを作成するフォルダを指定して「Install」ボタンをクリックすると解凍終了後、2-3のライセンス入力画面表示されます。

(デフォルトでは C:\Temp に解凍されます)



2-3. APC 3.0 ライセンス番号を入力

APC3.0 のライセンス番号を入力します。



※ APC2.X からアップグレードする場合には、新たに APC3.0 のシリアル番号を用意する必要があります。

APC3.0 の正しいシリアル番号を入力しないと下記のようなエラーメッセージが表示されます。



入力を 3回失敗した場合には下記のメッセージが表示されます。



2-4. データベースの「SA」のパスワード入力

データベースの SA アカountのパスワードを入力します。

※Policy Server の「システムツール」のログインパスワードと同じです。



正しいパスワードを入力しないと下記のメッセージが表示されます。



2-5. Proactive Defense (プリディフェンス)の管理選択

脆弱なパスワードで設定された管理者権限、共有フォルダの制限、異常トラフィックを発生するエージェントを制限する機能です。

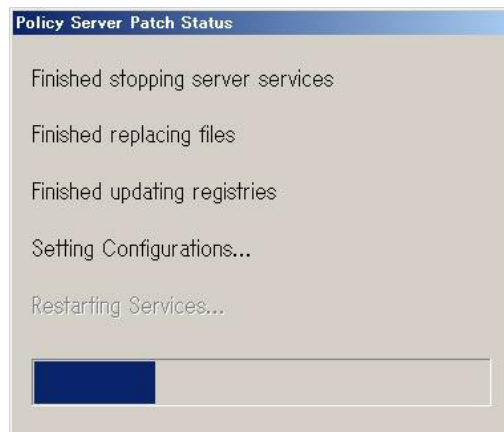
基本的にはチェックを入れたまま、「OK」をクリックしてください。

(※ APC3.0 以降バージョンで既に使用されている場合は表示されません。)

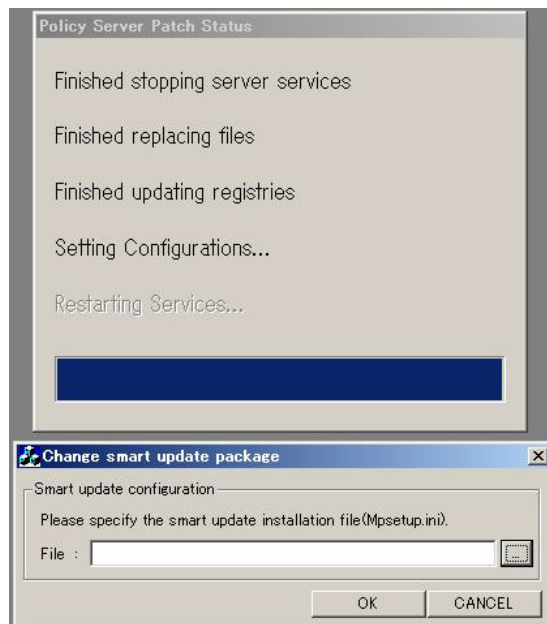


2-6. ファイルの切り替えとサーバーアップグレード終了

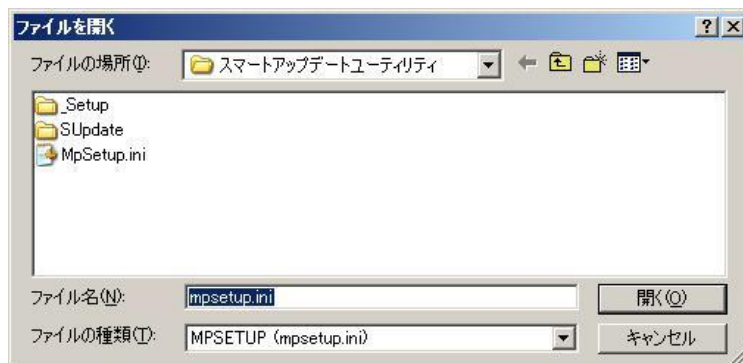
下記のように、サーバーサービスを停止しアップグレードが行われます。アップグレード終了後、サービスを再起動します。



登録されているスマートアップデートモジュールが古い場合、スマートアップデート登録画面が表示されます。



登録画面が表示された場合、メディアパック CD の /1_Master/2_Policy Server 登録用プログラム/スマートアップデートユーティリティの MpSetup.ini を登録します。



「開く」を選択すると、下記のようにになりますので「OK」をクリックします。



正常に終了すると下記のメッセージが出てきます。



2-7. 正常にアップグレードができない場合

サービスの停止や再起動が行われない、システム異常などが発生し正常にアップグレードが終わらなかった場合には再度アップグレーダーを実行してアップグレードを行ってください。

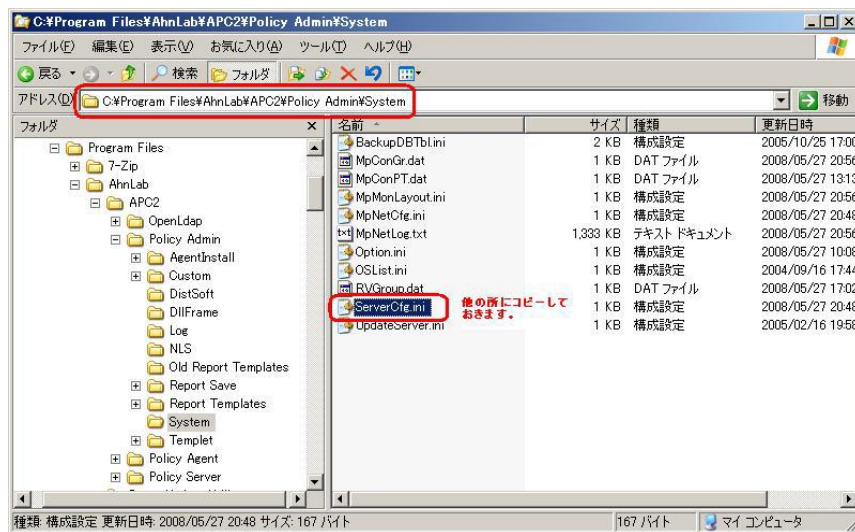
3. AhnLab Policy Admin の再インストール

AhnLab Policy Admin はアップグレードできないため、既存のAhnLab Policy Admin を削除し、再度インストールする必要があります。

3-1. 既存 Policy Admin を削除する前に

サーバー接続情報を保存している場合には、下記のファイルをバックアップし、再インストール後、同じ場所に入れ替えてください。

%Program Files%\AhnLab\APC2\Policy Admin\System\ServerCfg.ini



3-2. 最新 Policy Admin の再インストール

既存の Policy Admin を削除して、最新の Policy Admin (Ver 3.0.14.5) をインストールしてください。

※ Policy Server の初期インストールの際にポートを変更している場合には、サーバーIPとポートを変更してください。

3-3. Policy Admin にログインし、バージョンを確認します。

Policy Admin にログインし、「ヘルプ」→「AhnLab Policy Center情報」のバージョンを確認してください。

正常な場合は以下のようなバージョンになります。



● 最新の APC バージョン情報

—Policy Center Admin : 3.0.14.5 (Build 960)

—Policy Server : 3.0.14.5 (Build 960)

—Policy Agent : 3.0.14.5 (Build 960)

※ ログインできない場合、現在インストールされている Policy Admin のバージョンをご確認の上、最新の Policy Admin をインストールして確認してみてください。

4. アップグレード後の設定

4-1. ドメイン管理の設定

4-1-1. 管理製品設定

管理製品を一斉に変更してしまうとネットワークトラフィックが大量発生するため、既存製品にチェックを入れたまま作業を行い、まず Policy Agent をアップグレードさせてから、各グループ毎に管理製品を変更し、製品のアップグレード作業を行うことを推奨します。

1. アップグレード製品にチェックする

既存製品が選択されている状態で下記イメージのように「V3 Internet Security 8.0」と「V3Net for Windows Server 7.0」にチェックします。

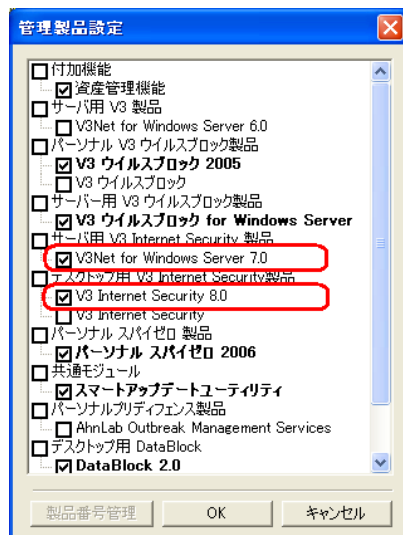
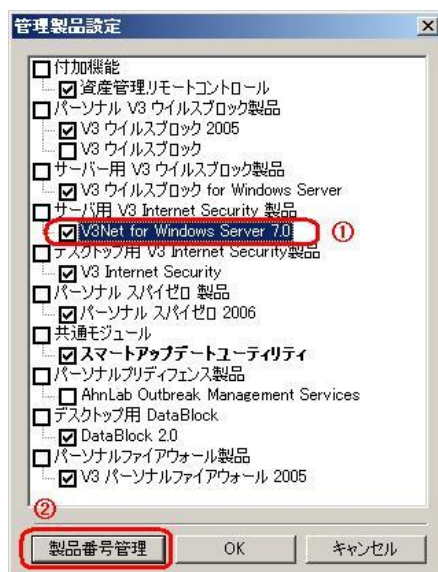


図 APC2.5.X V3 Corp Edition からアップグレードする場合の例

2. 管理製品番号の登録

V3 Internet Security 8.0、V3Net for Windows Server 7.0 製品のシリアル番号を登録します。

- ① メインメニューの「ドメイン管理」をクリックします。
- ② 「APCドメインポリシー」タブを選択します。
- ③ 「管理対象製品設定」アイコンをダブルクリックします。
- ④ 「管理対象製品設定」ダイアログボックスで製品を選択し「製品番号管理」をクリックします。



- ⑤ 「製品番号管理」ダイアログボックスで必要な情報を入力し「OK」をクリックします。

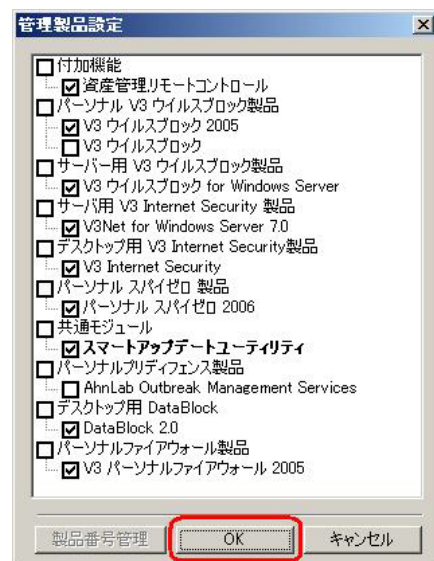


- ⑥ V3 Internet Security 8.0 も同様に④と⑤を行います。

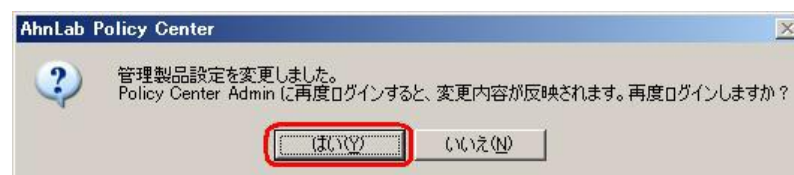
※既に製品番号登録が済んでいる場合には必要ありません。

3. Admin ツールの再起動

- ① 管理製品の設定終了後、「管理製品設定」画面で、「OK」をクリックします。



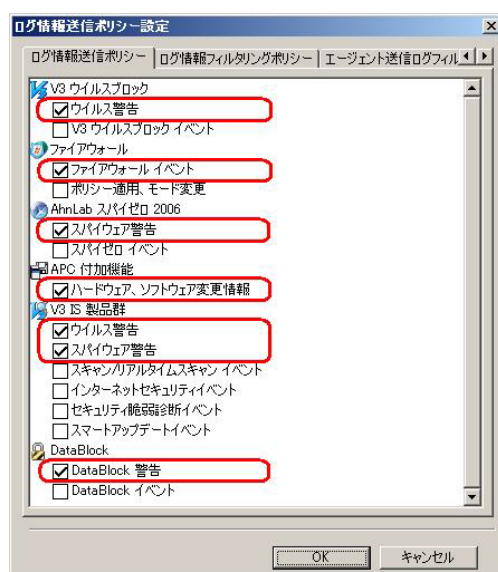
- ② 設定終了後、下記のように Adminツールの再起動が必要になります。



4-1-2. ログ情報送信ポリシー

1. ログ情報送信ポリシー

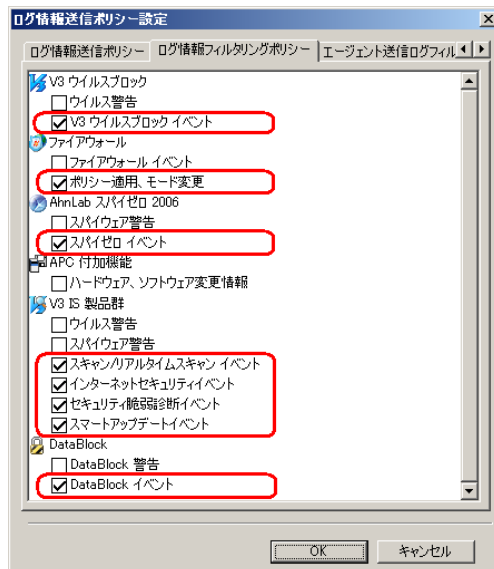
上位・下位サーバーを構成している場合、上位サーバーに送信するログの種類を選択します。イベントログなどは大量のログが残るため、チェックを外すことを推奨します。



2. ログ情報フィルタリングポリシー

エージェントから転送されるログの中から、データベースに保存するログの種類を選択します。

イベントログは大量のログが残ります。MSDE を利用している場合はデータベースの容量が2GB に制限されておりますので、通常運用時には、チェックを外すことを推奨します。

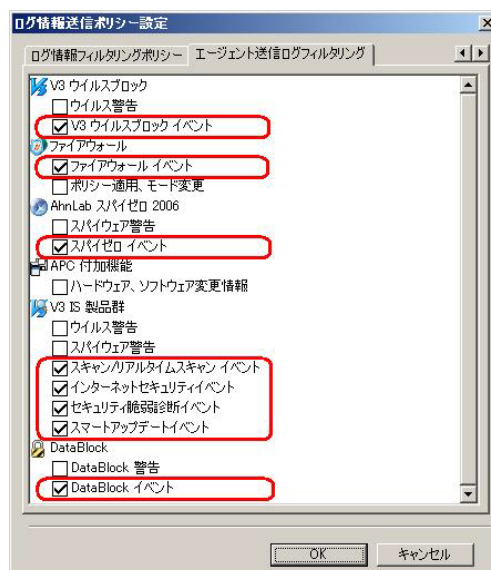


3. エージェント送信ポリシー

エージェントから APCサーバーに転送するログの種類を選択します。

2. の「ログ情報フィルタリングポリシー」と同じ設定を行うことを推奨します。

エージェントからログが転送されないので、ネットワークトラフィックを減らすことができます。保存しないログはここでチェックを入れてください。



(参考)

アップグレード作業及び製品のアップグレードの終了後「[4-1-1. 管理製品設定](#)」にて、**旧製品を削除する**と最終的に管理される製品は V3 IS 群 (V3 Internet Security 8.0、V3Net for Windows Server 7.0) となるため、「ログ情報送信ポリシー設定」は次のようになります。

(※ DataBlock ユーザーはDataBlockの項目が残ります。)

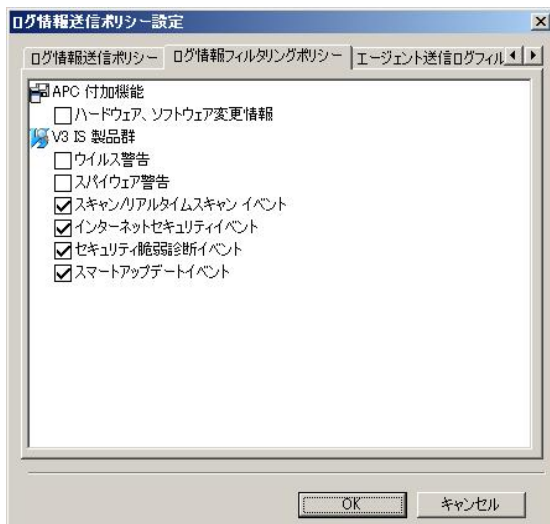


図) 旧製品を管理対象から削除した後のログ情報送信ポリシー設定画面

4-2. 「製品登録ツール」で製品登録をし直します。

スタート→プログラム→AhnLab→AhnLab Policy Center 3.0→製品登録ツールを選択します。

既存登録されている製品を選択し、すべて削除します。

※ アップグレード時、スマートアップデートを新たに登録した場合には次の①、②でスマートアップデートの削除/登録する必要はありません。

※ メディアパック CD に含まれていない製品を利用するためには、以前のバージョンのCD から製品を登録する必要があります。

- ① 「スマートアップデートユーティリティ」は最後に削除してください。
その後、各 Corp Edition に合わせて最新の製品を登録します。
- ② 製品登録時には「スマートアップデートユーティリティ」を最初に登録します。
※ V3 Internet Security 8.0 のみを使用する場合には「スマートアップデートユーティリティ」の登録は必要ありません。
- ③ 既存「パーソナル スパイゼロ 2006」をご使用されている場合は「パーソナル スパイゼロ 2006」は登録せず、代わりにスパイゼロ機能が含まれている「V3 Internet Security 8.0」を登録してください。
- ④ 「V3 ウイルスブロック for Windows Server」の代わりに「V3Net for Windows Server 7.0」を登録してください。

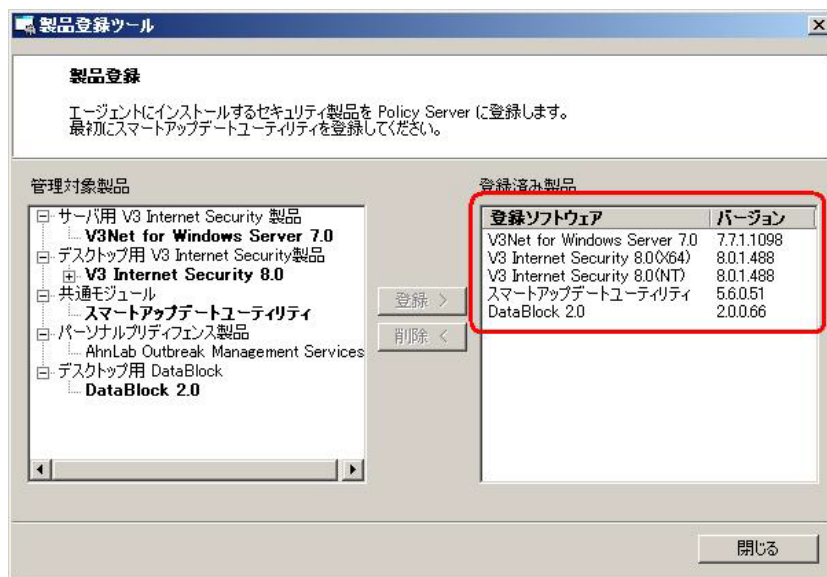


図 APC3.0 SP3 の最新製品のバージョン(既存 DataBlock Corp Edition の場合)

- スマートアップデートユーティリティ : 5.6.0.51
- V3Net for Windows Server 7.0 : 7.7.1.1098
- V3 Internet Security 8.0 : 8.0.1.488
- DataBlock 2.0 : 2.0.0.66

4-3. ポリシー管理の設定

4-3-1. 「Policy Agent」ポリシーの確認

※ APC3.0 SP3の場合、「DEFAULT_GROUP」の一部オプションは初期化されますので既存オプションに戻す作業が必要になります。

「DEFAULT_GROUP」で初期化されるオプション

ア. スマートアップデート設定→製品設定

イ. スマートアップデート設定→動作設定

→ 特に、「自動アップデート設定」にはチェックが入ってしまうため、チェックを外して運用されていた場合、再度チェックを外す必要があります。

4-3-2. 「V3 ウイルスブロック」ポリシーの確認

既存設定の変更なし

4-3-3. 「ファイアウォール」ポリシーの確認

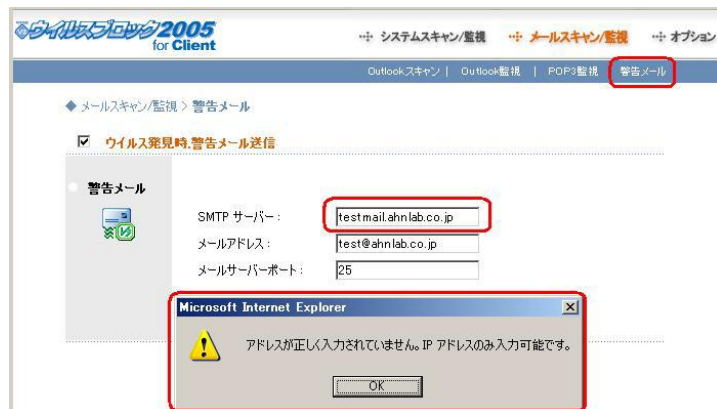
既存設定の変更なし

4-3-4. 「V3 ウイルスブロック 2005」ポリシーの確認

既存設定の変更はありませんが、「メールスキャン/監視」→「警告メール」の SMTP

サーバーの入力がIP アドレスのみ適用されるように変更されており、ドメインで登録されていた場合、IP アドレスへの変更が必要です。

(例 : testmail.ahnlab.co.jp → 222.111.222.xxx)



4-3-5. 「AhnLab スパイゼロ 2006」ポリシーの確認

追加オプションはありますが、既存設定の変更はありません。

● 追加オプション

- 「スキャン/監視」のリアルタイム監視に【ActiveX インストール遮断機能実行】オプション
- 既存の「設定」メニューは、「セキュリティ設定」、「スパイウェア例外設定」、「スケジュール設定」、「その他の設定」に変更。

4-3-6. 「DataBlock 2.0」ポリシーの確認

既存 DataBlock ポリシーはなくなり、DataBlock 2.0 ポリシーが生成される。

ただ、以前の設定は変更ありません。

4-3-7. 「V3 Internet Security」ポリシーの確認

既存設定の変更なし

4-4. 製品の入れ替え

4-4-1 「V3 ウイルスブロック 2005」から「V3 Internet Security 8.0」への入れ替え方法

V3 Internet Security 8.0 の場合、下記のように「Policy Agent」の「管理対象セキュリティ製品選択」から管理製品のチェックを外してください。

【パーソナルV3製品】、【AhnLab Personal Firewall】、【AhnLab スパイゼロ 2006】のチェックを外します。



※注意：ネットワーク負荷が予想されるため、グループごとに作業を行うことをお勧めします。

※注意：グループ別に適用する場合、「パーソナル V3 製品」にチェックを外すとWindowsサーバー用の「V3 ウイルスブロック for Windows Server」製品の管理ができませんので入れ替え作業終了後は「パーソナル V3 製品」にチェックを入れてください。

● 設定後の動作

- インストールされている「V3 ウイルスブロック 2005」、「AhnLab スパイゼロ 2006」、「ファイアウォール」が自動的に削除されます。
- 「V3 Internet Security 8.0」がインストールされます。**(再起動が必要：下図参照)**
- 再起動後は「V3 Internet Security 8.0」のポリシーが適用されます。



4-4-2 「V3 Internet Security 7.0」から「V3 Internet Security 7.0 Platinum」への 入れ替え方法

APC では V3 Internet Security 7.0(以下 V3 IS 7.0) と V3 Internet Security 7.0 Platinum(以下 V3 IS 7.0 Platinum) を同一製品として扱っているため、「製品登録ツール」に入れ替えるだけでは既にインストールされている V3 IS 7.0 から V3 IS 7.0 Platinum へ移行されません。

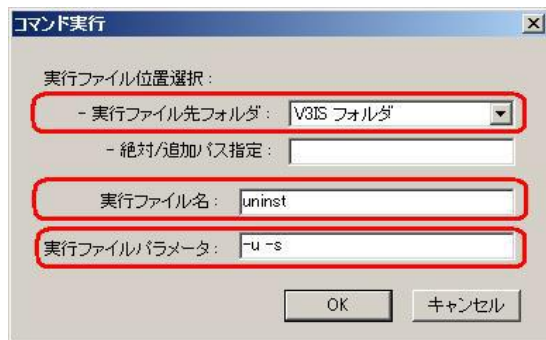
DataBlock の入れ替え方法と同様に V3 IS 7.0 を削除することで V3 IS 7.0 Platinum がインストールされることになります。

1. 「グループ名」の右クリック→緊急セキュリティコマンド→コマンド実行を選択
2. 「コマンド実行」画面で次のように入力し、「OK」をクリックします。

ー実行ファイル先フォルダ : V3IS フォルダ

ー実行ファイル名 : uninst

ー実行ファイルパラメータ : -u -s (-u: アンインストール、-s: サイレント)



※参考1：-u オプションのみを入れた場合、下記のアンインストールの確認メッセージが出てきますので削除の前にお知らせするためには-u オプションのみを入れてください。



「開始」ボタンをクリックするとアンインストールが始まります。
アンインストールが完了したら次のメッセージが表示されます。



※参考2：V3 IS 7.0の場合、削除後に再起動が必要でないため、そのままV3 IS 7.0 Platinum がインストールされます。

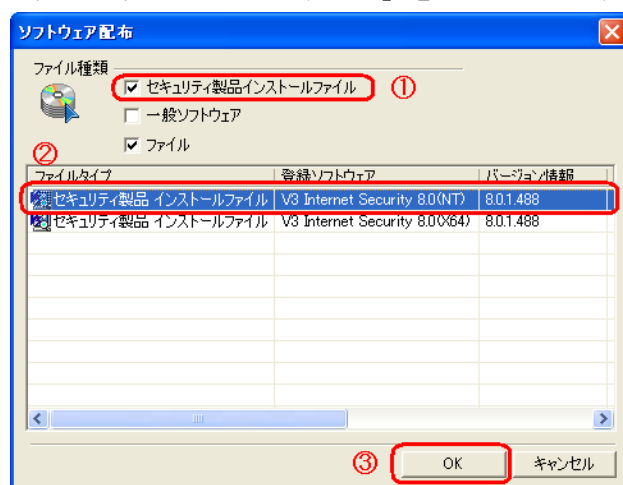
4-4-3 「V3 Internet Security」から「V3 Internet Security 8.0」への入れ替え方法
V3 Internet Security 7.0(以下 V3 IS 7.0) を V3 Internet Security 8.0(以下 V3 IS 8.0)へ入れ替える方法としては次の2つの方法がございます。

1. V3 IS 7.0 がインストールされているすべてのエージェントに V3 IS 8.0 を入れ替える方法

※ 注意 : 一斉にアップグレード可能ですが、トラフィックが集中するため、エージェントが100クライアント以下の場合に行ってください。

2. エージェント別・グループ別に V3 IS 8.0 に入れ替える方法

- ① 「ポリシー管理」からエージェント・グループを選択し、右クリックします。
- ② 「緊急セキュリティコマンド」→「ソフトウェア配布」を選択します。
- ③ ファイル種類から「セキュリティ製品インストールファイル」をチェックします。
- ④ 下記のようにチェックし、「OK」をクリックします。



3. 入れ替え後の動作

入れ替え後、再起動が必要になります。



4-4-4 「V3 ウイルスブロック for Windows Server」から「V3Net for Windows Server 7.0」への入れ替え方法

V3 ウイルスブロック for Windows Server(以下 V3 for W/S) から V3Net for Windows Server 7.0(以下 V3 for W/S 7.0) の移行は Agent Policy から「パーソナル V3 製品」のチェックを外すのみで自動的に入れ替えられます。

しかし、入れ替えした後、サーバーマシンの再起動が必要になるため、サーバーの再起動ができる時期に合わせてアップグレードすることを推奨します。

● 手動でアップグレードする場合

- ① サーバーマシンに「ローカルインストール用」の CD を CD-ROM に入れます。
- ② CD の「V3Net for Windows Server 7.0」フォルダから Setup.exe を実行します。
- ③ 自動的に旧製品 (V3 for W/S) が削除され、V3 for W/S 7.0 がインストールされます。
- ④ サーバーを再起動します。

● 自動でアップグレードする場合

- ① サーバーが存在するグループや個別の Policy Agent から「パーソナル V3 製品」にチェックを外します。



- ② 「ポリシー適用」をクリックしてください。
- ③ サーバーエージェントに V3 for W/S 7.0 がダウンロードされ、インストールが開始されます。
- ④ インストールが終了されると下記のように再起動メッセージが表示されます。



⑤ サーバーを再起動してください。

● アップグレード後、Adminツールでは、下記のように管理される製品が変更されます。



図) アップグレード前の状態



図) アップグレード後の状態

4-5. アップグレード後の作業

クライアント製品の入れ替えの作業が完全に終了した後、「管理製品設定」で以前の製品のチェックを外し、「OK」をクリックします。

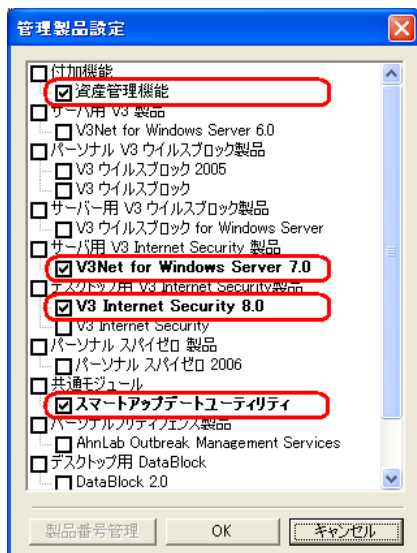
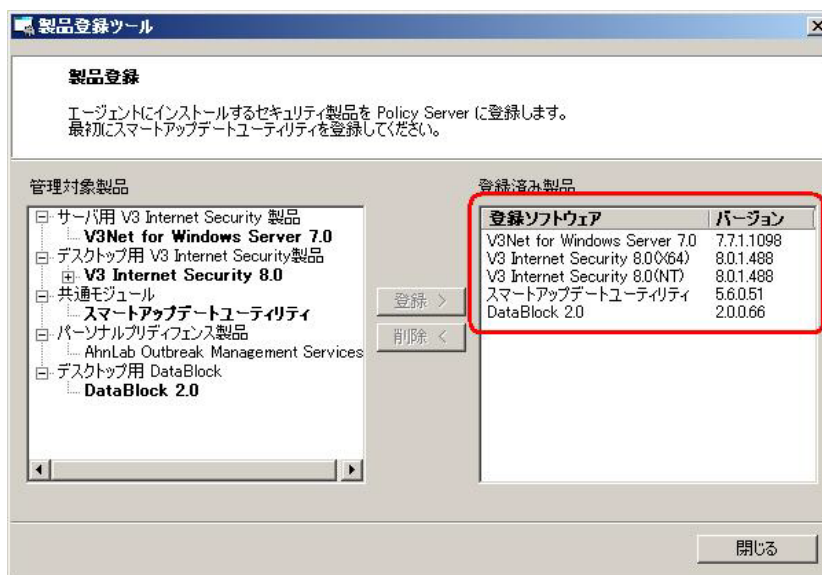


図) アップグレード終了後の管理製品設定

※ DataBlock 2.0 ご利用の場合には、DataBlock 2.0 のチェックは外さないでください。

「製品登録ツール」は以下のようになります。



4-6. サーバー管理

既存設定はそのまま残りますが、以下の3点にご注意ください。

1. 配布ソフトウェアの登録

- 既存ユーザーが登録した「ファイル配布」、「一般ソフトウェア」のファイルサイズが「0KB」になります。
→ APC3.0 から構造が変わったため、既存データがないファイルサイズが「0KB」になります。 ファイルの配布は可能です。
- サポートOS情報に Vista・Windows 7・Windows Server 2008 が含まれていない。
→ APCのバージョン毎にサポートしない OS があるため、その OS にも配布したい場合は配布ソフトウェアを再登録する必要があります。

APC バージョン	対応していない OS
APC2.5.x	Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008
APC3.0 SP1	Windows 7、Windows Server 2008
APC3.0 SP2	Windows 7

2. エージェントインストールファイル管理

APC3.0 からはエージェントインストールファイルがデータベースで管理されるよう変更されました。そのため、APC2.5.X で登録されているエージェントは表示されません。

エージェントインストールファイルも最新のエージェントに再度登録する必要があります。

ウェブに表示されるエージェントリスト ([Http://サーバーIP/](http://サーバーIP/)) もアップグレード後、APC3.0 のエージェントを作成することで既存のエージェントインストールファイルは削除されます。

3. アップデートサーバー選択

APC2.5.X からのアップグレードの場合、下図のように「アップデートサーバー選択」→「サーバー指定」に設定されます。「アンラボサーバーをアップデートサーバーに設定」に設定を変更してください。

アップデートサーバー設定

アップデートサーバー選択

☒ アンラボサーバーをアップデートサーバーに指定

☐ 上位サーバーをアップデートサーバーに指定

☐ サーバー指定:

http://

☐ プロキシサーバー使用

プロキシサーバー:

プロキシポート:

アップデート動作選択

1時間のアップデート実行回数: 回


再試行回数: 回

☐ APC サーバーアップデート禁止時間

日

~ の間

AhnLab Security Tower 設定

 Outbreak Management とプリディフェンスサービスのための設定です。

接続 URL: http://

接続周期: 分

再試行回数: 回

使用言語:

5. 付録

5-1. APC3.0 SP3 の主な修正点

APC3.0 SP2の主な修正点につきましては APC3.0 SP2 の「アップグレード手順書」をご参考ください。

1. V3 Internet Security の後継製品である V3 Internet Security 8.0 の追加及び APC での管理メニュー追加されました。
2. Windows 7 管理可能
 - エージェントのインストール、サーバー対応製品のインストール、ファイル配布などAPC から管理ができるようになりました。
3. 従来一つのファイルで管理されていた Agent ログファイルが 500Kbytes づつ分けて保存されるようになりました。(例: AmAgent_YYYYMMDD_XXX.log)

5-2. 未解決の問題点

1. 「V3 Internet Security」ポリシーの「ファイアウォール」規則を修正しても反映されない。
→ 該当ポリシーを削除後、再度登録する必要があります。
2. DEFAULT_GROUP の「Policy Agent」ポリシーの「スマートアップデート」オプションが初期化されます。([4-3-1 参照](#))
3. 「V3 Internet Security」や「V3Net for Windows Server 7.0」、「V3 Internet Security 8.0」ポリシーの以下の部分で日本語を入力するとポリシーが反映されない
 - ウイルス・スパイウェアのスケジュールスキャン名
 - ハッキング遮断のプログラム規則名、共有規則名、ネットワーク規則名
(V3 Internet Security、V3 Internet Security 8.0 のみ)
4. 「V3 ウイルスブロック for Windows Server」を「V3 Net7.0 for Windows Server」に入れ替えた後、「スタート」→「プログラム」→「AhnLab」→「V3 ウイルスブロック for Windows Server」フォルダが残ります。
→ 削除してください。
5. Group Editor → ヘルプ → Web ページへ移動 をクリックしても表示されない

6. リモートコントロールの制限事項

同じフォルダの「リモートコントロールの制限事項.pdf」をご確認ください。

7. 9X系 OS にて Policy Agent と V3 IS 7.0(Platinum) を削除すると PC の再起動時、「AmonTd9x ファイルを見つかりません。」とのエラーが出る場合があります。
レジストリの一部が残ったため発生する現象で下記のツールを実行して、再起動するとエラーがなくなります。

(メディアパック CD の/3_Tools/uninstall_amontd9x.exe)

8. APC サーバーのアップデートモジュール変更により、APCサーバー本体に Policy Agent もしくは V3製品をインストールしていないと APC サーバーのアップデートができない。
APC サーバー側に Policy Agentをインストールしない場合は下記のツールを実行するとアップデートできるようになる。(メディアパック CD の/3_Tools/Server_Update.exe)

5-3. アップグレード後のご注意点(修正不可)

1. V3 IS 7.0 から V3 IS 7.0 Platinum への自動入れ替えはできない。
APC サーバーでは同じ製品として管理されているため、入れ替え作業ができません。
([4-4-2 参照](#))
2. APC2.5.X から APC3.0 SP3 にアップグレード後、3.0のエージェントを作成すると 2.5.Xのエージェントがリストから消えてしまうので改めて作成する必要があります。
3. メモリ 128M の場合、V3 IS がインストールできない。
APC3.0.11.15 の Hotfix (RAM128Hotfix_20070813.exe) でメモリチェック値が 127M に変更されましたが、アップグレードするとまた値が戻ってしまいます。
アップグレード後、もう一度 RAM128Hotfix_20070813.exe を実行してください。
(メディアパック CD の/3_Tools/RAM128Hotfix_20070813.exe)
4. Win98系の OS の IE バージョンが 6.0 未満の場合、ポリシーが適用されない。
→ IE6.0 以降バージョンへのアップデートが必要です。
5. APC2.5.X から APC3.0 にアップグレード後、APCサーバーを削除すると製品名がAPC2.5 と表示される。
→ 表示の問題で削除には問題ありません。
6. APC3.0 SP3 アップグレード後、「スタート」→「プログラム」→「AhnLab」に空欄

の「AhnLab Policy Center 2.5」が残ります。

→ 削除してください。

7. APC サーバーで Proxy サーバーをご利用する場合、サーバー機の Internet Explorer に Proxy 設定を行う必要があります。

APC サーバーアップデートモジュールの変更により、IEの設定に基づいてアップデートされますので IE での Proxy 設定が必要です。

8. CleanAPC 機能が「オン」になります。

もし、CleanAPC 機能を「オフ」にした場合、APC3.0 SP3 を適用すると「オン」の状態になるため、危険グループのエージェントやエージェントがないグループが削除されてしまいますので、再度「オフ」にする必要があります。

アップグレード後、もう一度 APC3Init.exe を実行し、「CleanAPC 初期化」をクリックしてください。（メディアパック CD の/3_Tools/APC3Init.exe）

※ サービスの再起動は必要ありません。

9. アップグレード後、V3 Internet Securityのファイアウォールから下記モジュールに対する遮断メッセージが表示される。

① DataBlock を使用している場合：AmADB.exe の遮断メッセージが出る。

② リレーサーバーに設定されているエージェントの場合：mpupdate2.exe の遮断メッセージが出る。

→ 許可してください。

以上